



創立110周年記念特集



無花果

No.190
令和4年12月23日発行
発行 秋田県立聴覚支援学校
秋田市南ヶ丘一丁目1番1号

～ 110周年記念式典 アトラクション～

創立一一〇周年にあたって 実行委員長 高橋 すみか



一一〇年という長い間に、大正・昭和・平成・令和と元号は移り変わり、私たちの暮らしも大きく変わりました。人間に近いロボットの開発が進められたり、インターネットで世界中の人たちと会話ができるようになったりと、驚くスピードで科学は発展しています。聴覚障害者の世界でも、補聴器の小型化・デジタル化、人工内

耳の普及等、生活に欠かせない補装具の開発が進みました。これ過去には、障害者の人権がないがしろにされていた時代がありました。これも時代の移り変わりと共に理解が広まり、少しずつ改善されてきました。それは、これまでの先輩達が地道に声を上げ、訴えてきた結果です。そして、これからの未来を作っていくのは私たちです。皆が自分らしく生き、ときには助け合い、社会の一員として誇りをもてる、そんな未来になるよう共に歩んでいきましょう。

未来につながる 校長 新井 敏彦



全校の子どもたちで決めた一一〇周年のスローガンは、「その挑戦（チャレンジ）が未来につながる」新たな1ページへ」です。記念事業は、運動会、東北地区聾学校体育大会、演劇鑑賞、学習発表会、タイムカプセル開封・封入式とバトンをつないできました。そして、十一月三日の記念式典、アトラクション「繋（ツナグ）」、記念講演をもって、滞りなく終了することができました。関係の皆様

に、心からお礼申し上げます。また、コロナ禍のため、卒業生の皆様には、体育館への入場制限や祝賀会中止などに、ご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。
記念事業の準備や当日の運営は、子どもたちが主体的に役割を果たしてきました。子どもたちの挑戦（チャレンジ）のおかげで、聴覚支援学校の未来への扉を開けることができました。これからは、子どもたちが自分の未来を切り拓くことを期待しています。

宮城教育大学の松崎丈先生による記念講演では、本校や子どもたちに未来に向けた希望や勇気を与えていただきました。一一〇年の伝統を礎に、新しい時代の聴覚障害教育の推進に努めてまいりますので、今後もご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

「晴れやかなお式に感動しました」

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター

耳鼻咽喉科 中澤 操氏

二〇二二年十一月三日文化の日、貴校創立一一〇周年記念式典に参列させていただきました。とても晴れやかな気持ちで過ごすことができ本当に嬉しく思っております。在校生は少人数ですが、それが大きな家族（兄弟姉妹）

のように見え、長い間椅子に座り続けるのがもちろん大変で体をちよこちよこ可愛らしく動かす小さな仲間を、周りの上級生が温かく見守る様子は微笑ましく和みました。貴校を卒業して教師となり後輩を導いている方々、現職及び退職された教職員や卒業生の方々の優しい眼差しと気持ちに織りなす空間がとても美しかったです。

壇上でのお話は、新井校長の後半の手話、補聴器装用の高橋すみかさんの美しい発声（まるで声優のよう）、生徒代表藤原心華さんの手話口話同時並行の挨拶（これは互いに異なるモードですから非常に難しいはず）、校歌のところでは退屈していた小学生が「待っていました！」とばかりに手話で表現するその豊かさ、など感動することばかりでした。

実は三十年ほど前に卒業式に参列させていただいた時は全く異なっていて（手話が禁止されていた時代）とても

辛かったです。今回は一一〇年の歴史が花開く素晴らしい時間でした（心の中で大泣きしていました）。生徒さんのアトラクションと松崎先生のご講演は都合で参加できず申し訳ありませんでした。

末筆になりますが門外漢のような私が感謝状を頂くことになり恐縮しております。光栄に存じます。ありがとうございます。多様性・共生・セルフアドボカシーを具現し発信する学校であり続けてくださることを祈っております。



記念講演

「自分を助ける生き方を研究しよう」

講師 宮城教育大学 教授

松崎 丈氏

「人間は、どれほどみじめな条件や状況にあっても、なんらかの意味を見出すことができる。」これは、オーストリアの精神科医フランクルの言葉です。聴覚障害のある私が、学校や大学で差別や排除を受けても生き延びることができたのは、生きる意味を考え、自分を助ける研究をすることを続けてきたからだと思えます。

皆さんには、困りごとを皆で出し合い、解決方法「自分を助けるわざ」を一緒に考えてみてほしいと思います。その中で大事なことに気づくかもしれません。お互いに困りごとを分かち合えたなら、新たな希望をもって生きていけると考えます。

（生徒の感想より）

○困りごとを話してもよいという安心感が湧き、言えないもどかしさがなくなりました。
○自分のわざを考えることが、自分に合った生き方を考える機会になると気づくことができました。



記念演劇鑑賞

川村 雅子

七月二十日（水）かがやきの丘大体育館において、演劇集団「風」によるバリアフリー演劇「ヘレン・ケラー」ひびき合うものたち」を鑑賞しました。これは、文化庁令和三年度補正予算事業 子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業を活用したもので、普段は体験できない本格的な舞台芸術鑑賞と体験を通して、豊かな人間形成を図る目的で行われました。

劇団による本格的な舞台設定により、当日は体育館が劇場に変身。舞台は自由に見学でき、小学部は珍しい舞台装置や、水が出る手押しポンプを楽しみました。

劇中では台詞が全て手話で表され、背景に文字が浮かび上がるという充実した情報保障で、小学部から高等部専攻科、職員まで全員が夢中で鑑賞しました。

終演後は、本格的な音響、照明機器の操作体験や俳優との懇談で、演劇を十二分に味わいました。



令和四年十一月三日、本校大体育館において、創立一一〇周年記念式典を無事挙行いたしました。コロナ禍のため、御案内の制限や祝賀会中止などを経ての実施となりましたが、全校幼児児童生徒と職員が心を込めてお祝いしました。

式典に際し、同窓会からの寄附金、卒業生の方のステージ横看板、玄関立看板の製作、在校生と職員へのお菓子、励ましのメッセージ等、温かい御支援をたくさんいただきました。本当にありがとうございます。今後とも、卒業生をはじめとする多くの方々に支えていただきながら取り組んでまいります。

創立一一〇周年記念事業について御報告いたします

- (1) 記念運動会
五月十四日(土) かがやきの丘グラウンド
オリジナルTシャツ着用 卒業生サロン開設
- (2) 東北地区聾学校体育大会(秋田大会)
七月八日(金)～九日(土) 陸上・卓球競技実施
応援生徒・職員オリジナルTシャツ着用
- (3) 記念演劇鑑賞 劇団「風」
七月二十日(水) かがやきの丘大体育館
演目「ヘレン・ケラー」ひびき合うものたち
- (4) 記念学習発表会
十月一日(土) かがやきの丘大体育館
卒業生サロン開設
- (5) 百周年タイムカプセル開封・一一〇周年タイムカプセル封入式
十月一日(土) かがやきの丘大体育館
- (6) 記念式典
十一月三日(木) かがやきの丘大体育館・大会議室
※思い出の映像 アトラクション
- (7) 記念講演
十一月三日(木) かがやきの丘大体育館
講師 宮城教育大学 教授 松崎 丈氏
演題 「自分を助ける生き方を研究しよう」
- (8) 記念誌発行 十一月三日(木)
- (9) 記念学校展 イオン秋田中央店
十一月八日(火)～十四日(月) 視覚支援学校と共催
- (10) 記念品製作
オリジナルTシャツ オリジナルバッグ 秋田杉トレイ
クリアファイル ポストカード



記念品(クリアファイル、秋田杉トレイ)

一一〇周年記念品

上山 剛

産業技術科では、秋田杉で「小物トレイ」を製作しました。高等部一年生から専攻科生まで作業を分担しながら製作しました。特に根気のいる「浮造り(うづくり)」作業では、汗をかきながら手作業で丁寧に進めていきました。このような製作を通して、本校のものづくり精神を次の世代に引き継いでいきたいと思います。

おもてなしの心で

高等部専攻科一年 門脇 紗南

私は記念式典で、お客様の案内を担当しました。当日はたくさんのお客様がおいでになり、とても緊張しましたが、心を込めて挨拶やお茶出しをしました。お客様をご案内するのは初めての経験で、とても勉強になりました。また、このような機会があれば進んでがんばりたいと思います。



式典案内係

アトラクション大成功

高等部三年 畠山 朱里

記念式典に向けて、「当日のアトラクションを成功させたい」という気持ちで、みんなで練習を重ねてきました。不安なところは生徒同士で確認し合いながら、徐々にまとまってきました。

当日は、とても緊張しましたが、友達が堂々と手話やカラーガードをしているのを見て、励まされました。お客様が手拍子をしてくれて、とても嬉しかったです。みなさんに「サチアレ」を届けられてよかったです。



式典「歓びのことば」(藤原 心華)

小学部



「忍たまでんでん学園
メッセージを探せ!の段」

今年度の小学部は、でんでん学園の忍たまに扮して、聴覚城のお姫様から出された難題にそれぞれの得意技で挑みました。点呼時の隠れ身の術では、見えないように静かに隠れる練習をしました。ダンスでは、忍者ポーズや抜き足差し足での歩き方に気を付けました。個人技を繰り返し返し練習し、徐々にスピードと技術を高めました。お姫様らしい仕草を練習し、可愛さを磨きをかけました。最後の「勇気一〇〇%」の手話は、音楽の時間に繰り返し練習して覚ええました。五人ともやる気満々で楽しく練習に向かい、本番も成果をしっかりと発揮することができ、小学部五人の「そこちから」が感じられた発表となりました。

伊藤 直美

幼稚部



鬼退治、大成功!「ももたろう」

七人の子どもたちが、桃太郎、おじいさん、おばあさん、犬、猿、キジに扮して「ももたろう」の劇を発表しました。幼稚部での練習はもちろん、お家でもせりふやダンスの練習をがんばりました。せりふを全部暗記して大きな声でお話ししたり、張り切って鬼をやっつけたり、元気に伸び伸びとダンスを踊ったり、それぞれが練習の成果を存分に発揮してくれました。
七人全員がそろって練習できた日は少なかったのですが、本番ではかわいらしくもたくましく、力を合わせて発表を頑張りました。鬼退治 大成功!めでたし、めでたし。

菅原 研

学習発表会

「その挑戦(ちゃれんじ)が未来につながる~新たな1ページへ~」

高等部



「時の鐘」を胸に、新たな1ページへ!

生徒たちは、自分が演じる役柄を理解し、場面合った仕草や表情、話し方などを工夫しました。最後まで「声をもっと大きくした方がよい」「あの場面の動きをもう少し変えたい」などと、友達と改善策を考えながら練習を積み重ねました。
当日は、自分の役柄になりきり、今までの練習成果を存分に発揮しました。一人一人の気持ちのこもった演技に、ほろりと涙をこぼす人も。台詞のないときの動きを工夫したり、みんなで大道具や小道具を運んだりするなど、主体的に劇に参加する姿が見られました。
「家族、友達、時間」の大切さを実感した、記念すべき学習発表会になったのではないのでしょうか。

赤平 成美

中学部



「4人でつなぐ絆」

今年度は、先輩たちから受け継がれてきた和太鼓演奏とカラーガードに加えて、ボディーパーカッションにも挑戦しました。練習ではリズムやタイミングを合わせることに苦戦するときもありましたが、本番では練習の成果を発揮して息を合わせてパフォーマンスができました。生徒たちからは、「緊張したけど、思い通りにできた」「お互いをよく見てリズムを合わせられた」「協力し合って最高の発表ができた」「また来年もやりたい」などの感想を聞くことができました。四人でつなぐ絆をこれからも大切にしていきたいです。

熊谷 花菜

生徒会 展

〈中学部〉

中学部では、輪投げをやりました。当日は、係分担をして進めることができました。

〇一年 高橋結乃

大きな声で丁寧にルール説明をすることができました。お客さんの応援も頑張れたと思います。

〇二年 佐々木琉加

「来てくれてありがとう」とお菓子を渡しました。お客さんが笑顔だったので嬉しかったです。

〇二年 中島琴音

たくさんの方が参加してくれて嬉しい気持ちになりました。

〇三年 藤田泰輝

来てくれたお客さんを楽しませることができていたと思います。自分からお客さんに声をかけることもできました。



〈高等部〉

三年ぶりの生徒会展

三年 秦 結来

今年創立一一〇周年という記念すべき年ということで、子どもから大人まで全員が楽しめるようなことは何かと考えた結果、駄菓子屋さんに決めました。三年ぶりの生徒会展で、生徒全員が気合を入れて準備を進めてきました。販売会では、売り切れた製品も多く、お客様に喜んでもらえたようです。

駄菓子屋さんのお客さんを楽しませるために、生徒と先生で拍手したり、「すごい！」と声を掛けたりと場を盛り上げました。とても活気のある生徒会展になりました。



タイムカプセル

開封式・封入式

十年前と十年後を想う日

小松 千春

小学部の四人のドラえもんがタイムマシンで登場し、十年前の聾学校からタイムカプセルを届けてくれました。卒業生代表の深澤さんは、十年前に着用した百周年記念Tシャツを身に付けて参加してくれました。開封し、自分が書いた手紙を読んだ「懐かしい」と笑顔で話してくれました。式終了後、参加してくれた六名の卒業生は、開封の思い出話に花を咲かせていました。衣装や道具、動画等の作成、式の進行等、生徒が中心となって進めた、手作り感いっぱいなのとても温かい式となりました。未来の自分への手紙を封入した在校生も、十年後またタイムカプセルを囲み、笑顔で集えますように。



タイムマシン



開封式

東北地区聾学校 体育大会 秋田大会

自己ベスト更新

高等部二年 伊藤 蘭丸

七月八日、九日に東聾体が行われました。私が出場する種目は走幅跳で、目標記録は四メートル八十センチでした。直前に腰を痛めました、何とか完治し、出場できました。間に合っただけです。

競技がスタートしました。三回目に跳んだ瞬間、四メートル八十センチは越えたと思いました。いつもより高く跳んだ感覚があったからです。記録は、自分にとって初の五メートルでした。私は目標を達成することができて満足でした。

秋田で行われた今大会では、競技に出場しない中・高等部生も、一一〇周年オリジナルTシャツを着て、会場の準備やお弁当係などで活躍しました。職員が扮したなまはげも大人気でした。



学部の学習・行事コーナー

幼稚園部

秋の遠足「りんご狩り」

大滝 侑子

秋晴れに恵まれた十月十八日(火)、秋の遠足で果樹園に行きました。

バスの中では、友達としおりを見せて合ったり、外の景色を楽しんだり、「バスごっこ」の歌を歌ったりしました。

果樹園では、りんごのもぎ方を教えていただきました。「いくつもぐ?」「青りんごがほしい」「このりんごが美味しそうね。」「もっともぎたい」と親子でいろんなやり取りをしながら、両手でもぎ取る姿がかわいらしかったです。帰りには満足気な表情で袋にどっさりとりんごを梨を入れ、楽しい一日となりました。



小学部

秋の校外学習

鈴木 夏美

十一月八日(火)、「鳥海山木のおもちゃ美術館」に行ってきました。門をくぐると、趣のある旧鮎川小学校の木造校舎が見え、近くを由利高原鉄道のおもちゃ列車が通り、子どもたちのわくわくは最高潮に!中には様々な遊び場があり、「ちようかいタワー」に上って友達に「おーい!」と手を振ったり、

二階から「木のどんぐりプール」に滑り降りるのを楽しんだりしました。たくさんある「遊びのこべや」から自分の好きなおもちゃを見付けてじっくり遊ぶ姿も見られました。

た。温かい木のぬくもりに触れながら、充実した時間を過ごすことができました。



中学部

また一緒に楽しみたいね

「下北手中学校との交流」

会場 一幸

下北手中学校の「体育祭」に、中学部の生徒が参加しました。今年度閉校の太平中学校も参加し、三校の生徒混合による三チーム対抗で、全七競技で熱戦が繰り広げられました。始めはお互い緊張していた様子でしたが、筆談やジェスチャーなどで少しずつ会話するようになり、徐々にやり取りも増え、積極的に交流しようとしている姿が見られました。

来年度下北手中学校が閉校になることにより、十年続いてきた交流も終わりを迎えることとなります。十一年目の交流も無事行われ、お互いに思い出に残るものなることを願います。



高等部

交流講習会

幡宮 明

十一月十四日(月)、産業技術科の生徒三名が交流講習会を行いました。生徒が講師となり、幼稚園部の保護者の方二名とともに、秋田杉を使った小物トレイ作りに取り組みました。板の表面を茅でできたブラシで磨いて木目を浮き上がらせる「浮造り」では、生徒たちが手本を見せ、保護者の方と出来具合を確かめ合いながら仕上げました。徐々に緊張もほぐれ、保護者の質問に答えたり、作業を手伝ったりと和やかな雰囲気での交流することができました。また、産業技術科の授業の様子を知ってもらうよい機会にもなりました。



寄宿舎

奉仕活動

長里 ひとみ



寄宿舎では毎年「奉仕活動」を実施しています。今年度は来客用玄関、視覚支援学校、秋田さらり支援学校小学部の靴棚の清掃を行いました。事前に自分の担当箇所を決め、丁寧に掃いたり、スリッパを拭いたりし、早く終わった人は他の清掃箇所を手伝い、協力して行うことができました。また、通りかかった保護者の方や事務の方、先生方から「きれいになった」「ありがとうございます」とたくさん感謝の言葉をいただきました。生徒からは「きれいになって気持ちがいい。やってよかった」「みんなの役に立ててうれし」などの感想が聞かれました。

きこえつじこば支援センター

一側性難聴児の集い

渋谷 宏美

近年、少しずつ相談件数が増えている一側性難聴児とご家族への情報提供と、家族同士の出会いの場の提供を目的に、一側性難聴児の集いを八月六日(土)に初開催しました。当日は、全県から難聴児童生徒とその家族、担当者など、計十五名が集い、自己紹介、ミニゲームでアイスブレイクの後、当事者お二人の体験談をうかがいました。参加者からは、「同じ境遇のご家族に会えて、今後、相談できると思うと安心感もてた」「体験談から、どんな場面で困るのかが分かり、支援の具体が見えた」「今度は、他の親御さんとじっくり意見交換したい」などの感想が聞かれました。次年度も、ご家族のご要望に合った、集いの場を提供していきます。



体験談発表後の質疑応答



体験談の発表

修学旅行

中学部

秋田を学び、深まった絆

会場 一幸

六月二十九日から七月一日まで、中学部修学旅行は感染症予防の観点から、秋田県内及び青森県十二湖の旅行を実施しました。一・二年宿泊学習と実施日が重なっていたため、前半は宿泊学習と同行程で活動を行いました。集団での活動を楽しみ、その際のマナー等についても学ぶ機会となりました。「みんなと普段ゆっくりと話す機会がないので、話せて良かった」「樺細工づくりを教えてくれた先生とたくさん話ができた」等、秋田の自然や文化について学ぶ機会になったことはもちろん、仲間や様々な人とのコミュニケーションを楽しむことができた旅行となりました。



樺細工コースター製作体験



十二湖：青池でガイドさんと一緒に

高等部

大阪・京都への修学旅行

佐藤 剛大

十一月三十日から十二月二日まで、大阪と京都に行ってきました。生徒の感想の一部を紹介します。一日目「(電子マネーが普及し)貨幣の生産量が減っていることに驚いた。」「大阪城は思ったより大きく高かった。」「二日目「カップラーメンミュージアムでは、カップ麺の歴史を知ることができた。おもしろい工夫がたくさんあることが分かった。」「(着付け体験の)着物は動きづらかった。洋服の方がいいと思った。」「三日目「金閣寺は、本当に金色できれいだった。」「清水寺は人がたくさんいて(建物)が崩れるのではなにかと思っただ。」二人旅の思い出をいつまでも大切にしたいと思っています。



着付け・お抹茶体験



造幣局の見学

PTA研修

事業所見学に参加して

三浦 洋子

昨年から事業所見学に参加しています。今回の研修では、とうふ屋丸木橋六兵衛さんを見学させていただきました。食品を扱っている所であり、楽しみに参加しました。新しい建物で、明るく清潔感がありました。とうふだけではなく、生食パン、パスタ屋さんなどもやられているとの説明を受けました。販売所も併設されており、とうふのほか、ラスク、コロッケなども販売していました。とうふやコロッケを作っている様子も見学させていただきました。

子どもの将来を考える上で、いろいろな所へ行き、お話を伺い、働いている方々を目にすることは、私自身の刺激にもなり、よいことだと思っております。また機会があれば参加したいと思っております。貴重な体験をさせていただきありがとうございます。



部活動全国大会

人生初の全国大会

高等部三年 畠山 陽稀

十月十五日から十六日まで、山形県で全国聾学校陸上競技大会が行われました。私は砲丸投に出場しました。目標は自己ベストを更新することでした。目標達成はできませんでしたが、初めてで最後の全国大会を楽しみことができました。



初めてで最後の全国大会

高等部三年 長門 里紗

十一月に香川県で行われた全国聾学校卓球大会に出場しました。結果は、団体戦二勝、個人戦初戦敗退でした。個人戦は負けてしまいましたが、最後まであきらめない気持ちで試合に臨み、二セット取ることができたので悔いはありません。

他校の生徒たちとあいさつを交わしたこともよい思い出になりました。は、よりよい結果を持って帰りたいです。



アビリンピック出場

高等部専攻科一年 松本 拓己

千葉県幕張メッセで開催された全国障害者技能競技大会に、二年連続で秋田県代表として出場しました。たくさん選手の集まっており、とても緊張しました。自分が出せる力をすべて出し切ることができたと思います。結果は出せませんでした。他の選手の技能を学ぶことができました。来年度



ニュース・トピックス

◎令和四年度 東北地区聾学校体育大会(秋田) 陸上競技
一部 男子砲丸投 第二位 畠山 陽稀
男子走幅跳 第三位 伊藤 蘭丸

【卓球】
一部 男子団体 第二位 秋田・青森連合
男子個人 第七位 鈴木陽心哉
女子団体 第一位 秋田・福島連合
女子個人 第二位 山本 朱里
第三位 長門 里紗
男子個人 第一位 松本 拓己
女子個人 第二位 門脇 紗南

◎第二十一回秋田県障害者技能競技大会
【ワード・プロセッサ部門】
金賞 高等部専攻科一年 松本 拓己
銀賞 高等部三年 秦 結来

◎第五十五回秋田県高等学校総合美術展
【デザイン部門】
推奨 高等部三年 長門 里紗
入選 高等部二年 畠山 陽稀
高等部三年 秦 結来

◎第十四回秋田工芸展
奨励賞(エフエム秋田賞) 木竹合同作品
「太極(未来へ繋ぐ)一片」

◎令和四年度 みんなの写真展
佳作 高等部一年 川邊 蓮
入選 高等部二年 沼倉 蓮
中等部二年 中島 琴音
高等部二年 鈴木陽心哉

◎第二十回わくわく美術展
【絵画作品部門】
佳作 中学部二年 佐々木琉加
佳作 小学部合同作品

【自由作品部門】
佳作 三年 佐藤流星 四年 高橋卓弥
四年 中川瑞希 四年 三浦 航
五年 佐藤巧海

◎第十四回新聞きりぬきコンクール
【特別支援教育の部】
優秀賞 高等部専攻科一年 松本 拓己
佳作 高等部三年 畠山 朱里

◎フォナック補聴器レオ君似顔絵コンテスト
最優秀賞 高等部専攻科一年 伊藤 玲央
小学部五年 佐藤 巧海